

フレッシュ通信 Vol.4

やすふみ
齋藤 泰史さん
(25歳)



- 住まい 達磨寺
- 趣味 スノーボード、ドライブなど。
- 好きな食べ物 魚。刺身で食べるのが好きです。
- 好きな女性のタイプ 髪が長くて、女性らしい人
- 中山町の魅力は？ 近隣市町へアクセスしやすく、便利なところ。スポーツ施設が充実しているところも魅力だと思います。
- 中山町に足りないものは？ 家族連れや若者が集まるようなショッピングモールなどがあれば便利だと思います。

今回は、齋藤泰史さんをご紹介します。齋藤さんは、車の部品を製造する仕事の傍ら、町の消防団活動や地区のイベントなどにも積極的に参加しています。

仕事と消防団などの活動との両立は大変ではないですか？

初めは大変でしたが、もうすっかり慣れました。学生時代、陸上部で長距離をしていたので体力には自信があるんです。仕事に支障が出ない程度に、自分のできる範囲で活動しています。

消防団に入ったきっかけを教えてください

父が消防団に入っていたこともあり、地元の消防団の方に誘われてほぼ強制的に(笑)。19歳のときに入団したので、もう6年目になります。

消防団ではどんな活動をしていますか？

日常的な活動としては、月2回の器具の点検、町内の巡回などです。来年間催される消防操法全国大会の選手候補にも選ばれているので、個人的に筋力トレーニングにも励んでいます。他にも、救急救命講習を受講したり、消防操法大会の前には積極的に訓練に参加するようにしています。

消防団に入って変わったことはありませんか？

何か災害があったら地域の人を守らないといけない、自分が動かなければならぬ、という責任を感じるようになったと思います。

他には、消防団に入るまではほとんど地区の人と関わらなかつたのですが、人付き合いが広がって色々な年代の方と話すようになりました。

消防団活動や地元のイベントに参加することで、多くの人と触れ合えるので、地域の一員であることを実感します。

取材当日は、地元の盆踊りとのことでしたが、準備の合間を縫って取材に応じてくださいました。ファッションもヘアスタイルも今どきの若者らしい齋藤さん。地元のお祭りを盛り上げるため、炎天下のもと汗をかきながら率先して働く姿が印象的な青年でした。

齋藤さん、ありがとうございました♪



なかやまタイムスリップ Vol.4

今から56年前…
1957
(昭和32年)
水道水が出た！



7月の豪雨災害では近隣の市や町で水道が断水して、とつても大変でした。ところが、中山町の水道っていつできたのでしょうか。豊田地区では土橋地区が大正14年に、その他の地区は昭和30年前後に水道が完成しました。戸数の多い長崎地区では莫大な金額と労力が必要で、念願の完成は昭和32年でした。これで町内全域の家庭で、蛇口をひねれば水が出るようになったのです。現在、私たちが飲んでいる水はといえば、昭和42年から県野球場東側にある「最上川中部水道企業団」が、中山町、山形市の一部、山辺町へ良質で安定した水を供給してくれています。

水難事故の安全を祈願 『川向金比羅樽流し保存会』発足

最上川に樽を流して水難事故がなくなるようにと願う長崎川向地区に伝わる伝統行事『金比羅樽流し』。

8年前まで地区を挙げて実施してきましたが、一時中断。白田ヤノさん(桜町)がたった一人で樽流しを続けてきました。これを知った町内の有志が「保存会準備委員会」を組織し、今年5月6日に8年ぶりに樽流しを復活させました。



今年5月の樽流し風景



案内人 すもものしずくちゃん
すもものしずくちゃんの詳細はフェイスブックで

各家庭では水道ができるまで、不衛生な井戸から手桶をかきだして、苦勞して水を汲んでたんだけど、その必要がなくなると、台所にはいつも新鮮な水があふれるようになったんです。



発足式の様子

7月26日にはその「準備委員会」から正式な保存会となるための発足式が、ひまわり温泉「ゆ・ら・ら」で行われ、賛同した20名が参加しました。発足式で会長に選任された鈴木昭十さん(金沢)は、「最上川はわが町にとって、とても重要なものです。その最上川においてこの伝統文化は県内ではここだけなので、団結しながら存続させ、子孫に伝えていきたい」と今後の継承に意欲を見せていました。